

2016 富士チャンピオンレースシリーズ 第4戦 レポート

CJ korea express

SUPERRACE CHAMPIONSHIP

Round 6



今年も韓国・中国・日本と転戦するSK ZIC6000シリーズの第6戦が今回の富士チャンピオンレースと併催で行われた。ドライバーも韓国の他カナダやドイツ、そして日本からは井出有治、影山正美、青木孝行が参戦。また韓流スターのリュ・シウォンも参戦していることから今年もグランドスタンドには応援の方々がたくさんいらして華やかなレースとなった。Q1~Q3の勝ち抜き予選でトップタイムを出したのは12 ファン・ジンウ、フロントローには07井出と並ぶ。ランキングトップの06 チョン・ウィチョルはピットスタートになってしまったが、どこまで追いつけるのか楽しみとなった。6リッターエンジンの轟音が鳴り響き決勝レースはスタートした。直後の1コーナーで07井出と10 スティーブン・チョが接触でレースを離脱してしまう。その後は2・3番手争いを尻目に12 ファン・ジンウが徐々に差を広げ21週のレースをポールトゥフィニッシュで終了した。2位にはドイツから参戦の09 ティム・ベルグマイスター、3位はピットスタートから追いつけた06 チョン・ウィチョルが入った。

RESULT リザルト CJ SUPERRACE

Rank No.	Name
1	12 HWANG JIN WOO
2	09 TIM BERGMEISTER
3	06 JUNG EUI CHUL
4	02 KIM DONG EUN
5	81 JEOUNG YOUN ILE
6	19 KIM JAE HYUN



ROADSTER N1

ROADSTER CUP NA6・NA8・NB8

Round 3



今シーズンも後半戦に入った第3戦。土曜日に予選・決勝が行われた今回はどちらもウェットコンディションの中でレースが行われた。予選で総合トップタイムを出したのはNB8 77クラブパンテールNB8 鈴木勇太2'18.637、フロントローにはNA8トップの88 なおしおるくアクレNA8 山田健介が2'19.494で並び3番手にはNA6 23 JoyアクレMotys☆NA6 山川譲。N1は1コーンズIDIロードスター 大野俊哉がトップからのスタートというグリッド順となった。決勝スタート時には雨が激しくなり開始を少し遅らせた上でSC先導のローリングスタートに変更。4周目にスタートが切られる。路面のせいか各所で何台かアクシデントもある難しいコンディションのレースを制したのはNA8 88 山田だった。レース後88山田は「タイヤのおかげで何とか勝てました」と話していた。NB8トップは26 玉と砕けよNB8 三橋準「今シーズン、マシンを作り直してようやく勝つことが出来ました」NA6では今やトップカテゴリーで活躍している7大山バリーアクレMotyNA6松井孝允がスポット参戦で優勝「皆と一緒に盛り上がり、プレッシャーもあったけど楽しかった」N1は48 マキタスピードロードスター 芝田敦史「この天候の中で勝てた、ベッテルみたいで嬉しい！」と話していた。

RESULT リザルト ROADSTER N1

Rank No.	Name
1	48 芝田 敦史
2	22 小林 弘典
3	81 安達 陽平
4	2 雨宮 恵司
5	1 大野 俊哉
6	24 田辺 良輔

RESULT リザルト ROADSTER CUP NA6

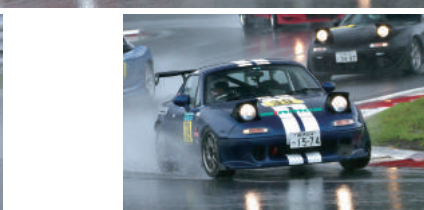
Rank No.	Name
1	7 松井 孝允
2	23 山川 譲
3	76 辻本 均
4	10 櫻園 弘
5	27 野木 強
6	73 高橋 功典

RESULT リザルト ROADSTER CUP NA8

Rank No.	Name
1	88 山田 健介
2	39 人見 俊一

RESULT リザルト ROADSTER CUP NB8

Rank No.	Name
1	26 三橋 準
2	77 鈴木 勇太
3	91 神谷 誠
4	21 山平 健太郎
5	12 東 宗明
6	84 大矢 明夫



N1000/DEMIO RACE ROADSTER CUP NC・ND AUDI A1 Round 3



今回からAudi A1も加わり、5カテゴリー7クラスの混走となったこのカテゴリーは、女性の参加者が増えてきている。雨の予選でポールポジションの席を決めたのはNCオープンクラス8 ☆ライダーロードスターアクレ 菊池聡の2'20.225。NDオープンはスポットで58 OKUYMAロードスター 青木孝行が参戦、クラストップタイムで3番手スタート。Audiトップは総合4番手から20 Hitotsuyama A1 一ツ山亮次、N1000は28 ALPHA IDI ヴィッツ 河元基、デミオは75 西山隆というグリッド。決勝も雨が降りしきりSC先導で4周目にスタートがきられた。各所で激しいバトルの末、9週のレースは58 青木に0.2秒差まで詰められたものの8 菊池が逃げ切りトップチェッカーを受けた。レース後、総合・NC優勝の8菊池は「ストレートではこちらが速いので何とか逃げ切りましたが疲れました」NDトップの58青木は「誘っていただいて急遽参戦、他のクラスともバトルできて楽しかった」N1000 54 FAVRもちょヴィッツ 恒生彬「1周目で上手く前にでて勝つことが出来ました」デミオ75 西山は「最近の雨では一番酷くて大変でした」Audi A1はこちらもトップカテゴリーから参戦の20 藤井誠暢が優勝「公式戦初めてのマシン、パドルシフトのオートマで誰にでも運転出来るしコーナリングバランスも良く、今回のレースではクラス混走でバトルも出来て楽しかった」



RESULT リザルト N1000

RankNo.	Name
1	54 恒生 彬
2	28 河元 元基
3	393 前田 貴行
4	27 山崎 じん
5	49 菅野 良男



RESULT リザルト DEMIO RACE

RankNo.	Name
1	75 西山 隆
2	5 岩岡 万梨恵
3	6 辻田 慈
4	52 戸田 和彦
5	38 古閑 宏



RESULT リザルト ROADSTER CUP NCC

RankNo.	Name
1	22 中桐 孝治
2	87 山本 絵里子



RESULT リザルト ROADSTER CUP NCO

RankNo.	Name
1	8 菊池 聡
2	1 高橋 裕史
3	7 関崎 祐美子
4	25 橋川 学



RESULT リザルト ROADSTER CUP NDC

RankNo.	Name
1	90 岡原 達也
2	3 寺下 皓大
3	4 猪爪 杏奈
4	21 新井 敏克
5	45 北平 絵奈美



RESULT リザルト ROADSTER CUP NDO

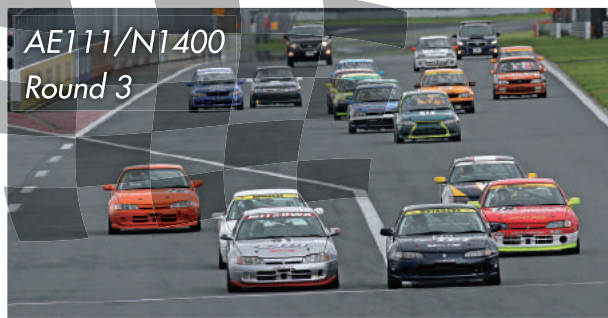
RankNo.	Name
1	58 青木 孝行
2	9 茂木 文明



RESULT リザルト Audi A1

RankNo.	Name
1	20 藤井 誠暢
2	101 一ツ山 亮次
3	19 中原 英貴

AE111/N1400 Round 3



RESULT リザルト AE111

Rank No.	Name
1	98 三浦 勝
2	91 船木 周一
3	18 塩岡 雅敏
4	78 大沢 雄哉
5	76 石井 京子



RESULT リザルト N1400

Rank No.	Name
1	21 大竹 直
2	26 斉藤 和実
3	3 山田 大輔
4	0 戸敷 直人
5	72 高橋 ノボル
6	222 小野田 篤士

SUPER FJ Round 4



RESULT リザルト Super FJ

Rank No.	Name
1	2 上村 昌史
2	7 佐藤セルゲイビッチ
3	45 安部 哲
4	36 草野 貴哉
5	14 飯嶋 郁陽
6	37 小村方 喜章

86&BRZ/8BEAT Round 3



RESULT リザルト 86&BRZ

Rank No.	Name
1	57 川村 克透
2	53 平良 浩幸
3	47 落合 立成
4	3 関根 基司
5	7 三好 広幸
6	222 松下 浩平



RESULT リザルト 8Beat JP-2S

Rank No.	Name
1	12 ウズラ
2	07 伊藤 毅
3	211 田中 雅之
4	05 稲田 昌文



RESULT リザルト 8Beat JP-3S

Rank No.	Name
1	1 木幡 修一郎
2	13 市川 忠康
3	88 佐藤 真子



RESULT リザルト 8Beat JP-4S

Rank No.	Name
1	301 北見 洸太
2	03 坂本 弘明

ウェットコンディションでの予選ではAE111 98 MAS91K/F・IDIトレノ 三浦勝が2'10.672でトップタイム、N1400では0 戸敷電設ミッドランドED82 戸敷直人の2'17.865。決勝スタート時には雨も止んで路面もドライになりかかっているが、台風の雲行きなのでいきなり降りだすかもわからない難しいコンディション、そしてフォーメーション中に一気に空が暗くなりオープニングラップ中には降りだしてしまった。その中でスタートした決勝はAE111 98 三浦と91 カミー・史子さん結婚・祝レビン 船木周一が終盤まで激しいトップ争い。N1400は4周目にトップに立った21スノコDLマリンAID82 大竹直と26 すぐるwith東車協青年部EP82 斉藤和実が最後までトップを争い0.5秒差で21 大竹が先にチェッカーを受けた。レース後98 三浦は「ドライセットで出て行ったので最後までヒヤヒヤしながらのドライビングでした」21 大竹「安全運転我慢比べのレースでした、2周目にコカコーラコーナーでポツポツ降り出したと思ったらドー！っときました。ようやく勝てて嬉しい」と話していた。

全5戦で行われるS-FJシリーズも第4戦、シリーズチャンピオン争いも2 上村、22赤堀、31三枝の3人に絞られてきた。今回は土曜の予選は雨の中で行われ、ポールポジションを決めたのは2 ガレージ茶畑10V ED 上村昌史 2'00.538、フロントローには22 150WMユニルオパール10V 赤堀憲臣が2'00.705で並ぶ。ドライコンディションで行われた日曜日の決勝ではスタートで出遅れたものの2上村が終始トップの座を受け渡すことなく周回を重ねるたびに徐々に後ろを引き離してゆく。チャンピオン争いの22赤堀はオープニングラップに手痛いスピン。その後は徐々に追い上げ4位にまで付いたが最終ラップでマシンがストップしてしまう。12週のレースは2上村の優勝。2位には7 ZAP結婚の学校10VED 佐藤セルゲイビッチ、3位には45 ガレージ茶畑10V ED 阿部哲という結果となった。2上村はレース後「スタートを失敗してしまいましたが、トップを奪い返してからは落ち着いてファステストラップも狙いながら走れました」と話していた。最終戦を待たずにこれで2上村のシリーズチャンピオンが決定した。

こちらシリーズ後半戦に入った第3戦、日曜日の予選・決勝はドライコンディションの中で行われた。予選でトップタイムを出したのは8Beat JP-2R プロコンボジットBLITZ86 古田稔 2'03.925。フロントローにはJP-2S 12 ウズラレーシング ウズラ 2'04.577が並ぶ。86&BRZでは総合6番手で57 86Racer's川村号 川村克透が2'05.939でトップタイム。決勝ではスタートで12 ウズラが前に出てトップでTGRコーナーへ、レース中盤までは激しいトップ争いが続けられるが6周目に99古田がマシントラブルでストップ、12ウズラはそのままトップでチェッカーを受けた。JP-3Sクラスは1 アイブローズ芝ライBRZ 木幡修一郎が優勝、JP-4Sクラスは301 ケーエムエムADOVAN86R 北見洸太が勝ち86&BRZクラスでは57川村がトップから後続を徐々に引き離してそのまま優勝した。12ウズラは「ロケットスタートも決められたし上のクラスと競い合って勝てたのはとても嬉しい」とコメント。57 川村は「予定通り上手くいきました。次回は上のクラスもバンバン抜かしていききたいです」と話していた